

平成 25 年 9 月 30 日	<b>病虫害発生予報</b> <b>10月号</b>	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

**農作物の収穫後は被害残渣や被害葉を持ち出すなど  
圃場管理に努め、次作の病虫害の発生を抑えましょう。**

< 目 次 >

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病虫害】</b>	
イチゴ：ハダニ類	1
共通害虫：ハスモンヨトウ	1
<b>【防除所レポート】</b>	
平成 25 年の水稻における主な病虫害の発生経過と防除対策等について	2
秋冬レタスの菌核病の発生時期と防除対策について	3
<b>【その他の病虫害】</b>	4
大豆，ナシ，ブドウ，イチゴ，トマト，秋冬ハクサイ，秋冬レタス，秋冬ネギ， 共通害虫	
<b>II. 今月の気象予報</b>	5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病虫害防除所      Tel : 029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

フェロモントラップデータ随時更新中

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 9月下旬現在、被害葉率(本年値 22.4%、平年値 0.3%)、発生地点率(本年値 63%、平年値 11%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチや天敵を導入する圃場では、薬剤の影響日数等に十分注意する。

(平成 25 年 9 月 27 日発表 病害虫速報 No.5 参照)

#### 共通害虫

### 1. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 9月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は土浦市、龍ヶ崎市で平年より多く、笠間市、筑西市でやや多く、水戸市、鉾田市で平年並である。
- ② 9月下旬現在、秋冬ハクサイ及びレタス圃場での寄生幼虫数は平年並であり、イチゴ圃場での被害株率は平年よりやや少なく、大豆圃場における発生量は平年よりやや少ない～少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 圃場をよく観察し、若齢幼虫の集団の早期発見に努める。幼虫が中齢以上になって分散して食害するようになると、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果も低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が入るとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

## 平成 25 年の水稲における主な病害虫の発生経過と防除対策等について

水稲における主な病害虫の発生生態、本年の発生経過及び防除対策について、県内の定点 57 圃場等の調査結果をもとにまとめました。来年の防除対策の参考にしてください。

### 1. いもち病

[発生生態]

低温、日照不足、多湿等の気象条件で発生する病害である。葉いもちは例年梅雨入り後の 6 月下旬から発生し始め、梅雨明け直後頃に最も発生が多くなる。その後、出穂期頃に降雨が続くと、穂いもちが多発生する。

[本年の発生経過]

6 月は、いもち病感染好適日※（BLASTAM による）の出現日数が平年並であった。7 月上～中旬は日照時間が平年より多く、降水量は少なかった。また、気温も平年より高かったことから、葉いもちの発生量は平年より少なかった。8 月は高温で平年並の降水量であったことから、穂いもちの発生量も平年よりやや少ない発生であった。

※感染好適日：当日の葉面湿潤（濡れ）時間が一定以上、前 5 日間の平均気温が 20～25℃。

[主な防除対策]

種子消毒は必ず行い、育苗箱施用剤の利用とあわせて、圃場の発生状況に応じて薬剤防除を行う。

### 2. 縞葉枯病

[発生生態]

ヒメトビウンカが媒介するウイルス病である。主に発病株のヒコバエ（収穫後の再生稲）を吸汁したヒメトビウンカがウイルスを保毒して越冬し、翌年の伝染源となる。

[本年の発生経過]

県西及び県南地域の一部で発生が確認された。特に県西地域では調査地点の半分以上で発病が見られた。近年は発生量、発生地点ともに増加傾向にあるため、今後の動向に注意が必要である。

[主な防除対策]

収穫後は早期に耕起してヒコバエをすき込むとともに、ヒメトビウンカの越冬場所である畦畔雑草の除草を徹底する。また、ヒメトビウンカの防除対策として、育苗箱施用や本田防除を実施する。なお、多発地域では抵抗性品種の導入が最も効果が高い。

### 3. 斑点米カメムシ類

[発生生態]

イネの出穂前には水田周辺のイネ科雑草地に生息し、イネの出穂とともに水田に侵入し、穂を加害しながら葉や穂に産卵する。ふ化した幼虫も同様に穂を加害し、加害は収穫期まで続く。

[本年の発生経過]

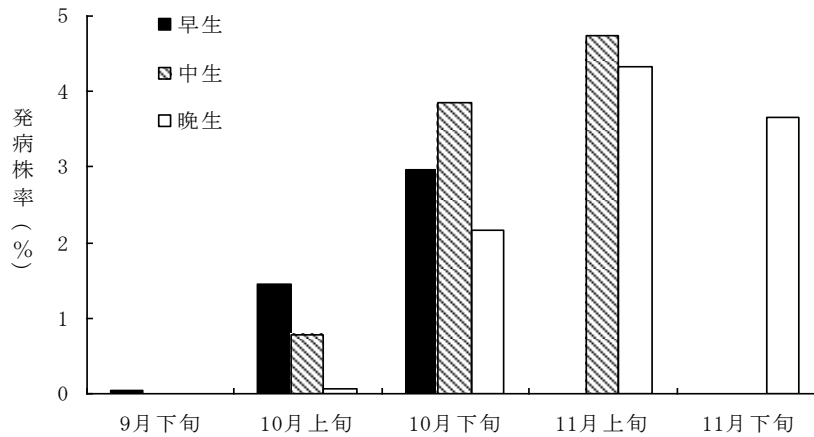
7 月～8 月の本田における発生は平年より多かった。発生種の主体は例年同様クモヘリカメムシで約 7 割を占めた。また、アカスジカスミカメが虫数で平年の約 2 倍、発生種全体の割合でも約 2 割になる等、例年より発生が目立った。

[主な防除対策]

水田周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。また、穂揃期（成虫対象）や出穂期の 10～15 日後（幼虫対象）に薬剤防除を行う。

防除所レポート[秋冬レタスの菌核病の発生時期と防除対策について]

- ①9月下旬現在，発病株率（本年値 0.1%，平年値 0.02%），発生地点率（本年値 6%，平年値 1%）ともに平年よりやや高い。
- ②例年，9月下旬頃から発生を認め，早生の作型では10月上旬，中生・晩生の作型では10月下旬の結球期以降に発生が多くなる（図）。
- ③薬剤防除は，発病後の散布では効果が落ちるので，作型に合わせて予防散布を行う。また，圃場の排水を良好にし，翌年以降の伝染源となる菌核を作らないうちに発病株は抜き取る。



早 生	結球開始期	結球期	収穫期	—	—
中 生	展葉期	結球開始期	結球期	収穫期	—
晩 生	定植期	展葉期	結球開始期 ～結球期	結球期	収穫期

図 秋冬レタスにおける菌核病発病株率の作型別平年値の推移

※ 値は，過去 10 年間の平均（11月上旬は 2 年間）。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	紫斑病	発生量：－	適期収穫に努め、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。残渣は伝染源となるため、畑にすき込む等、適切に処理する。
	カメムシ類	発生量：平年並 ～やや少ない	9月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
ナシ	黒星病	発生量：－	秋季防除を徹底する。落葉は翌年の伝染源となるので、適切に処理する。
ブドウ	褐斑病	発生量：－	秋季防除を徹底する。落葉や巻づるは翌年の伝染源となるので、適切に処理する。
	晩腐病		
	べと病		
イチゴ	炭疽病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。
トマト	黄化葉巻病	発生量：－	9月上旬現在、抑制トマトで発生を確認している(地点率 40%)。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。促成トマトでは、ハウスの開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置する等、媒介虫であるタバコナジラミの防除を徹底する。
秋冬ハクサイ	軟腐病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。台風等の強風を伴う降雨の後は、防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。
	白斑病	発生量：やや少ない	9月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
秋冬レタス	菌核病	発生量：やや多い	9月下旬現在、平年よりやや多い発生である。結球期以降は発生しやすいので、防除を徹底する(P.3 防除所レポート参照)。
	腐敗病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので、防除を徹底する。
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：やや少ない	9月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は水戸市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年並、土浦市、筑西市で平年より少ない。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 9月28日から10月27日)

気象庁(9月27日 発表)

#### <特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

#### <1週目の予報> 9月28日(土曜日)から10月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

#### <2週目の予報> 9月5日(土曜日)から10月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

#### <3週目から4週目の予報> 10月12日(土曜日)から10月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。